

簡易な「蔓（つる）降ろし器具」の考案と この器具を使った太ニガウリの栽培

八女分場

1 背景、目的

近年、消費量が増えている太ニガウリをキュウリやインゲンなどで使う鉄製アーチパイプ枠を利用して栽培すると、収穫開始後、短かい期間で蔓や葉が過繁茂となり、色つきの悪い果実が多く発生し、長期に収穫を継続することは困難です。

そこで、太ニガウリの色や形の良い果実生産と長期栽培が可能となる簡易な「蔓降ろし器具」を考案し（特許出願中）、その使い方を検討しました。

2 成果の内容、特徴

- 1) 半硬質樹脂製のパイプに切り込みを入れた、長さ約50cm程度の簡易な「蔓降ろし器具」を考案しました。
- 2) この「蔓降ろし器具」は、作物を誘引する鉄製アーチパイプ枠にかみ合わせて用います。作物の生育に応じ、順次、パイプ枠の上部から取りつけ、誘引ひもは「器具」の上から張ります。その後、作物の生育が進み、蔓降ろしが必要な時には、最下部の「器具」を取り外した後、上部の「器具」を順次降ろします。
- 3) 鉄製パイプ枠の最下部では、誘引ひもを除去した後に「蔓降ろし器具」を切り込み部から取り外すことができ、連続して蔓降ろしができます。
- 4) この「蔓降ろし器具」を太ニガウリの栽培に利用すると、果実に光がよく当たり、色つきが悪い果実（着色不良果）が少なくなり、収穫期間が延長できます。この器具はトマトの収穫期間延長にも使えます。

3 主要なデータなど



図1 「蔓降ろし器具」を用いた栽培の概要

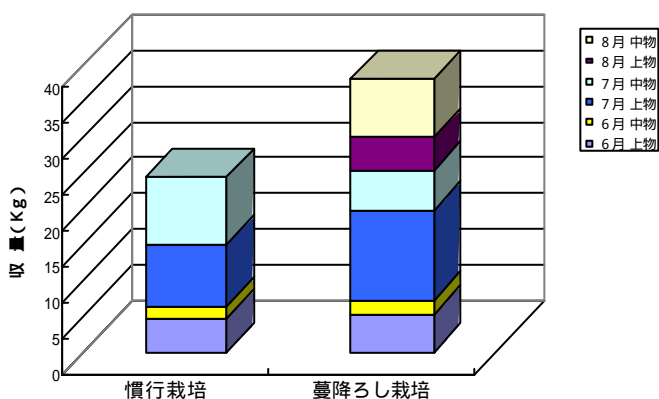


図2 栽培法の違いと太ニガウリの上中物収量
注) 3月16日播種でハウス栽培、8月末までの4株当たり収量
「慣行栽培法」は、過繁茂により7月末で収穫終了。
「蔓降ろし栽培法」は、9月以降も収穫継続可。

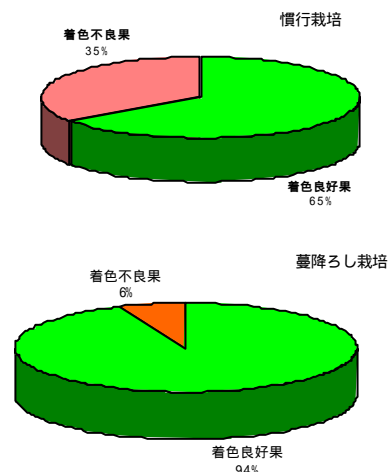


図3 栽培法の違いによる太ニガウリ着色不良果の発生割合
注) 7月末までの全収穫果に対する割合